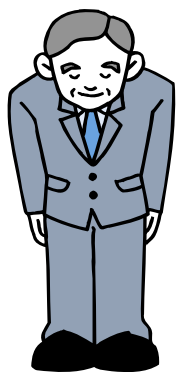



第二回の「まちセン通信」は、**苗穂まちづくりセンター**と**東まちづくりセンター**を紹介いたします。

※人口・世帯数は、各まちづくりセンターの所管区域ごとの統計です。  
(住民基本台帳ベース・平成18年7月1日現在)



**苗穂まちづくりセンター**

北1条東10丁目  
☎(26) 36699




あさの まさひろ 所長  
浅野 正信

人口/3,839  
世帯数/2,053

**東まちづくりセンター**

南2条東6丁目市民ギャラリー内  
☎(24) 1696



たけこし まさひろ 所長  
竹田 晃

人口/5,852  
世帯数/3,882

苗穂は、中央区の東端に位置し、JRの線路と豊平川に囲まれた東西に細長い地区です。明治三年から入植が始まり、工業の町として発展を遂げた歴史を持ちます。

戦後は産業構造の転換などにより宅地化が進み、今ではマンションが立ち並ぶ町へと変貌を遂げています。

それに伴い他の地域から移り住む人が増加したため、平成十四年からは新旧住民の交流を目的に、連合町内会が年二回程度「苗穂を語る会」を開催しています。苗穂地区の防災、イベント、高齢者、子どもの見守りなど、身近な話題を選び、「まちづくり」について熱心に話し合っています。また、昔から子どもを大切にする地区であり、六月の「こども樽みこし」、八月の



▲苗穂の歴史を勉強する「苗穂歴史探検隊」

「サマーフェスティバル・イン・なえぼ」「子供盆踊り」十一月の「昔遊び交流会」など、子ども向けの行事が数多くあります。このほか、子ども版苗穂史誌を作製したり、「苗穂歴史探検隊」を募集して町歩きをしたり、昨年からは小学生に苗穂の歴史を伝える事業も行っています。

(浅野 正信)

北海道の創成期には酒造・製粉など多くの官営工場が置かれ、川沿いの魚町周辺に多くの職人が住む生活感あふれる下町だった中央区東地区。一時期、人口減少・過疎化傾向でしたが、現在は都心隣接地という利点からマンション等の建設が進み人口増加が著しい地域となっています。

昔から住んでいる方がマンション等で生活する方が上手につながりを持つことで、かつての下町が持っていた活気や一体感を取り戻すことが、今、必要なことでしょう。

九月十七日(日)、地域住民と企業等が連携し地域の活性化を目的に、今まで別々に開催していた「丹頂蔵祭」と「頓宮例祭」を同日に行い、新たに市民ギャラリー、二条市場、レツツ中央、ファクトリーを加



▲「創成川東秋まつり」に協力する皆さん

えたイベント「創成川東秋まつり」を実施しました。多くの方々が本趣旨に賛同し、ご協力いただき実現したものです。東地区では、連合町内会や関係諸団体による様々な活動を通して人と人とのつながりを深め、安心・安全な生活ができる地域を目指し、一歩一歩着実に歩み始めています。

(竹田 晃)

広告欄